

現代国語辞典の特色

勝 田 耕 起

E-mail: kkat@hyper.cx

0. 本稿の目的と想定読者

大学に国語学の教員として勤務していると、日常的に「こういう言い方は正しいか」という質問を投げかけられる。学生はもとより事務職員・教員、学外では友人・家族など、要するに身の回りの人の簡便な辞書といった役回りだ。無論、筆者自身は博識な Walking Dictionary であるはずもなく、日本語を観察し説明する視点・方法・手段といったものに多少詳しいだけである。

さて、そのような規範を求める気持ちはいつの時代にもあり、手近に頼るものといえば国語辞典であろう。そしてさまざまな辞書が作られることになる。出版社もサイズも多様で「何を買ったらいいか」という相談もしばしば受けるし、「何を買って同じ」や「基本は広辞苑」といった思い込みも耳にする。本稿は、国語学研究者による国語辞典案内である。語の(項目内の)記述には辞書によってどのような特色があるのか、を分かりやすく示し、悩める人の一助になればと思う。また、国語教育や日本語教育に関係する学生には、言語教材研究として読んでほしい。

このようなわけで、本稿は一般向けの分かりやすさを第一義とする。辞書の記述を比較し使い勝手を詳細に検討した一般書籍⁽¹⁾もあるが、詳細なだけに情報量過多で分かりにくくなるという側面もあろう。本稿はそういう意味での「国語教材作成法」試案でもある。

1. 考察対象とその分類

まずは物理的な「大きさ」により大型・中型・小型・ポケット型の4つに分け、もっとも種類の多い小型辞書を収録語数によってさらに〈5・6万語クラス〉と〈7・8万語クラス〉に二分した(表1)。小学生用の学習国語辞典の収録語数が2~3万、中学生用だと3.5~4.8万くらいであることから、「5万語以上」を一般向けの条件とし、網羅的な収集に努めた⁽²⁾。

使うということを考えた場合、片手で持てるかどうかは大きな問題なので、表1の一覧には厚さ・重さを表示してある。一般に図書の情報としてはページ数を示すことになっているが、それは何のイメージも喚起しないので本稿では採用しない。「重さ」とは結局「紙の量」である。言語情報の載る面積をどのくらい持っているかに読み替えられる。これの大小は必ずしも収録語数(見出し数)の多寡とは一致しない。例えば、㊸学研国語大辞典は10万語という収録語数だが、22万語の㊹広辞苑とほぼ同じサイズである。紙の厚さや活字の大きさ・行間の違いもあろうが、そこには項目編集の態度の相違が見える(後述)。

出来るだけ新しいもの、購入可能なもので考察するよう努めたが、「お買い得ランキング」を作るのが目的ではなく、辞書選びの視点が提示できればよいので、新品購入不能なものでも若干取り上げてある。同内容の小型・携帯版がある場合は、そちらのみ載せた(㊵㊶㊷)。ただ

表1 現代国語辞典一覧

	番号	書名・版	出版社	収録 語数	高さ cm	厚さ cm	重さ g	発行年 改版年	値段 (税抜)	ページ体裁	特記事項
ポ ケ ッ ト 型	①	デイリーコンサイス 国語辞典3	三省堂	7.0万	15.5	1.7	180	2000	1900	横組65行	
	②	講談社カラーボックス 国語辞典	講談社	8.1万	15.5	1.8	200	1998	1800	横組65行	英訳語 47000例
	③	ポケットプログレッシブ 国語辞典	小学館	7.0万	15.5	2.0	200	1998	1700	横組69行	
	④	パーソナル現代国語辞典	学研	7.3万	16.0	2.0	210	1998	1800	横組60行	英訳語
	⑤	集英社ポケット国語辞典	集英社	7.2万	16.5	1.9	270	1996	1748	横組68行	奥行10.5
小 万 語 型	⑥	清水新国語辞典 7	清水書院	6.0万	15.2	2.8	400	1999	1550		
	⑦	新小辞林 5	三省堂	5.5万	17.0	2.8	420	1999	1800		
	⑧	岩波国語辞典 6	岩波	6.3万	18.6	3.9	700	2000	2800	横組あり	
	⑨	福武国語辞典	ベネッセ	6.0万	18.6	3.8	740	1997	2381		
	⑩	角川必携国語辞典	角川	5.2万	18.5	4.0	770	1995	2600		
	⑪	例解新国語辞典 6	三省堂	5.5万	18.5	4.0	770	2002	2500		
	⑫	学研現代新国語辞典 改訂 3	学研	6.7万	18.5	4.2	770	2001	2600		
	⑬	現代国語例解辞典 3	小学館	6.7万	18.5	4.0	820	2000	2800		
	⑭	精選国語辞典 新訂版	明治書院	5.0万	18.7	4.5	820	1998	2500		
	⑮	三省堂国語辞典 5 小型	三省堂	7.6万	16.0	3.3	470	2001	2300		
	⑯	新明解国語辞典 5 小型	三省堂	7.3万	15.8	3.6	500	1997	2600		
	⑰	新選国語辞典 8	小学館	8.6万	16.8	4.0	630	2001	2500	横組あり	
	⑱	三省堂 現代新国語辞典 2	三省堂	7.1万	18.7	3.5	700	2003	2700		
	⑲	国語総合新辞典	旺文社	8.3万	18.5	4.0	700	1998	2800	横組	英訳語
⑳	講談社国語辞典 2	講談社	7.6万	18.6	3.9	780	1991	2233			
㉑	旺文社国語辞典 9	旺文社	8.1万	18.6	3.9	810	1998	2700			
㉒	明鏡国語辞典・携帯版	大修館	7.0万	18.0	4.6	820	2003	2800			
中 型	㉓	新潮現代国語辞典 2	新潮	7.9万	19.0	4.7	930	2000	2900		
	㉔	集英社国語辞典 2	集英社	9.4万	18.5	5.5	1040	2000	3500	横組あり	
	㉕	新潮国語辞典 2 現代語・古語	新潮	14.0万	19.7	6.0	1270	1995	4800		
	㉖	新辞林	三省堂	15.0万	21.0	5.2	1300	1998	4700	横組	
大 型	㉗	言泉	小学館	15.0万	22.5	8.2	2250	1986	5631		
	㉘	学研国語大辞典 2	学研	10.2万	21.7	8.2	2500	1988	5825		
	㉙	広辞苑 5	岩波	23.0万	22.3	8.5	2550	1998	7300		
	㉚	大辞泉・増補新装	小学館	22.0万	23.0	7.8	2750	1998	7200	カラー図版	
	㉛	大辞林 2	三省堂	23.3万	24.5	8.5	2950	1995	6952		
	㉜	日本語大辞典 2	講談社	20.0万	26.0	8.2	3800	1995	7573	カラー図版	英訳語

し②の文庫版は対象外とした)。

寸法・重さは、箱を除いた本体(表紙)を実際に計ったもの。数値は定規とはかりの目盛りを目視したもので、厳密なものではなく一つの目安と考えてほしい。

2. 大型・中型辞典の特色

同じくらいの大きさの辞書でもそれぞれ性質が違うという点を、大型辞典4種の比較によって確認しよう。紙の量が多ければ、現代語として十分な語彙、必要最小限の語釈を載せてなお+αの余地が出来る。そこにどういう情報を載せるか、というところにその辞書の編纂方針が現れるのである。

ここでは「おこがましい」という語の記述

を具体例として相違を観察することにする(表2)。現代語と古語とで意味が違う語(あからさま、うつくしい、等)はいくつもあるが、その意味分類をどう記載し、どのような例をいくつ掲げるか、は辞書の使い勝手を大きく左右するのである。

2.1 意味

「おこがましい」は一般に

- (1) 身のほどをわきまえずに出すぎたまねをするさま(現代語)

の意で用いられるが、これは平安時代からある語で、もともとはオコ(愚か、ばか)にガマシ(過度に感じさせる)が付いて

- (2) 愚か過ぎる(古語)

という意味だった⁽³⁾。

表2 「オコガマシイ」の記述の比較

		広辞苑	大辞林	大辞泉	日本語大辞典
A	意味分類と掲載順	①古語 ②現代語	[②が原義] ①現代語 ②古語	①現代語 ②古語	①古語 ②現代語 ③?「しゃくにさわる」
B	用例	①一・しゅうしろめたきわざなりや(源夕顔)	②おりたちて乱るる人は、むべ、一・しきことも多からむ(源紅葉賀)	②世俗のそらごとを、ねんごろに信じたるも一・しく(徒然73)	
		②天に替って窮民を救ふといふも一・いが(伎、青砥稿)			
	作例	②自分で言うのも一・いが	①「自分のことは棚に上げて、そんなことを言うとは一・い」「一・くも口出しする」	①先輩をさしおいて一・いのですが…	①一話だ。 ②一ふるまい。 ③口にするも一。
C	収録語彙対照	おこがましい おこがる(痴がる) おごく(御御供) おごく(勤クの転) おこげ(御焦げ) おごけ(麻小筍) おごご(御供御の転) おごごし(形容詞) おごごと(痴言) おごころ(雄心) おこさこ(右近左近) おこさまランチ	おこがましい おこがる おこげ おごけ おごご おごこし おごごと おごころ おこさこ おこさま(ランチ)	おこがましい おこがる おこげ おごけ おごころ おこさこ おこさま(ランチ)	おこがましい おこがる おこげ おこさまランチ

表2のAは上記(1)(2)の語釈の掲載順を示したものである。広辞苑は古い順に並べ、大辞林と大辞泉は現在通用する意味を前にもってくる。大辞林には「②が原義」という注釈が分類の前に付いており、言葉の変化を記述する意図が明確である。

2.2 用例

Bには用例をまとめた。辞書の項目中では、①や②の語釈の直後にそれぞれ付いているものである。用例は実例と作例を区別した。実際に文学作品等で用いられた、出典の確実なものを実例と呼ぶ。広辞苑・大辞林・大辞泉は古語の実例を挙げるが、日本語大辞典には無い。広辞苑は、現代のような「おこがましい」の使われ方が始まった頃の例として江戸時代末期の実例を載せる。「伎」は歌舞伎脚本、「青砥稿」は青砥稿花紅彩画(文久2年1862初演)のこの辞書における略称(大抵は「凡例」にまとめてある)である。⑳学国では「おこがましく革命を口にする資格などどこにもない」(46.12.19 読売朝・編集手帳)という現代の実例が掲載されている。

大辞林は現代語における作例を2つ掲げている。一つは「そんなことを言うとはおこがましい」で述語になる場合。もう一つは「おこがましくも口出しする」で注釈的な修飾語の場合である。全ての形容詞がこの2つの用法を持つわけではないので、この語に関してはこういう使い方があり、という手本として出していると考えてよい。日本語大辞典は「③しゃくにさわる。irritating」として、用例に「口にするもおこがましい」を挙げているが、筆者の内省ではこの慣用表現は「不遜・思い上がり」の例であり、上記(1)である。③として他と区別すべき実例は未見だが、一覧表32種の中では⑭⑰⑱⑳もこの語釈と用例を掲載している。

2.3 +αの見出し語

Cは、「おこがましい」から「おこさま(ランチ)」までの収録語彙を対照できるようにしたものである。広辞苑と大辞泉を比較してみよう。両者は辞書全体の収録語数がほぼ同じであるにもかかわらず、Cの範囲では広辞苑12語、大辞泉7語である。大辞泉で立項されなかった語は以下の通り：

- ・御御供(おごご)(神仏に供えた飯や餅をいう方言)
- ・動く(うごく)(ウゴクの転。平安時代に用例あり)
- ・御供御(おごご)(もともと昼食のことをいう女房詞。近世上方方言)
- ・おごごし(おごご)(日本書紀古訓に見える形容詞)
- ・痴言(おこごと)(ふざけたことば。源氏物語に例あり)

つまり、古語や方言である。

2.4 まとめ

以上のように、20万語クラスの大型辞書といってもそれぞれに特色があるので、使用目的に応じて選択する必要がある。日本語日本文学の研究者(学生を含む)・愛好者や文筆家が手元に置いて使うには、広辞苑や大辞林が便利であろう。しかし、現代語の意味や漢字表記などの確認のために主に使用する人には、広辞苑は古語辞典的色彩があまりに強く、必要事項を見つけにくい辞書ということになる。大辞泉と日本語大辞典は、6千枚以上のカラー写真や図を掲載しており、視覚情報により理解が助けられる。特に動植物や芸術作品、史跡などについては、門外漢が期待するのは「百聞」ではなく「一見」であろう。

大型・中型の国語辞典は、実例の重要視度と収録語数によって図1のように整理できよう。

語数(万語)					
8	10	15	20	23	
学研国語		新潮国語(現古)		広辞苑	古典実例型 ↑ (語釈型) ↓
新潮現代国語			大辞林		
集英社国語		言泉	大辞泉		百科見出し型
新辞林		日本語大辞典			

図1 大型・中型国語辞典のタイプ分類

「古典実例型」と「百科見出し型」を両極とし、間を、実例はあまり無いが説明の長いオーソドックスな「語釈型」とした。

3. 小型・ポケット型辞典の特色

3.1 ポケット型

16×9×2 (cm)というサイズは、財布と携帯電話を足した程度のものである。負担なく持ち歩くために小型であらねばならないという外形上の制約があるという点では、表1の中では異質な存在と言える。会議や読書の最中に語義や

漢字表記をちょこっと確認するためのものであり、用例はほとんど掲載されないので文章作成時に参照するには向かない。

例として①デイリーコンサイズと④パーソナルを挙げた。ポケット型国語辞典ではこの両者が編纂方針の上で対極にあると考えられる。デイリーは「情報詰め込み型」、パーソナルは「瞬間確認型」とでも呼べよう。例：

(デ)そば₁:『蕎麦』麦:] ① ↓タデ科の一年草
(パ)そば【蕎麦】 ①実からそば粉を作る作物

国語辞典の項目を構成する最小限の要素は

表3 ポケット型辞書の専用記号比較

		デイリー	パーソナル	備 考		
非 文 字 記 号	アクセント	○	×			
	動植物カタカナ表記	○	×			
	漢字 表記	標準/参考	○	△	(パ) 掲出順で区別。 [例] 悲しい/哀しい	
		常用漢字	○	×		
		常用漢字表音訓	○	×		
		当て字・熟字訓	○	×		
	語釈中	親見出しの用例/小見出しの用例	○	×	(パ) それ自体が小見出しを有するものは独立させる	
		比喩的・発展的な意味	○	×		
		派生用法や語源に関する補足注記	○	×	(パ) 語釈に含む	
	解説文の最後を前後別項目の空きスペースに移動		○	×		
文 法	品詞	品詞	○	○		
		動詞活用の種類	○	×		
		形式名詞	○	×		
		補助動詞	○	×		
	意味	類義語・対義語	○	○		
		擬音語・擬態語	○	×		
		形	連語	○	○	
			接頭語・接尾語	○	○	
			語構成要素	○	×	
			派生語	○	○	
			連用形名詞の動詞形	○	○	
			慣用句ことわざ	×	○	
	同音語・同訓語	×	△			
	位相	専門用語	○	○	(デ) 哲法、(パ) 理哲地工論	
		俗語・文章語・古語	○	○		
		今では使わない表現	○	×		
		仏教語	○	×		
	出自	外来語の原籍国	○	○		
		和製英語	○	×	(パ) 語釈に含む	

[見出し][漢字][語釈]の3つであるが、この三者に様々な補助記号を付けることで限られたスペースに多くの情報を盛り込み、理解がもっとも深められるようにしてある。その補助記号の種類をまとめたのが表3である。記号は大きく〈文字〉と〈非文字=符号〉とに分けられる。前者は、見れば概ね内容の想像が付き、後者は凡例を確認しないと意味が分からないことが多い。

表3の対照表で明らかのように、デイリーは非文字記号を多用する辞書である。一方パーソナルは動詞の活用の種類すら区別せず、五段活用も下一段活用も[動]と記すなど、凡例の参照を極力避けている。また表1に記したように、デイリーの方がパーソナルより5mm背が低いのに、行数は65行で5行も多い。

これらを両極に数種の辞書が存在する。ここでも前節同様、総合的優劣は存せず、最適のものは各人の使用目的により決まると言える。

3.2 小型辞典

国語辞典の中でもっとも種類の多いのが18.5×14×4(cm)のサイズのものである。表1の⑥～⑫の17冊に見える特徴を、既出の着眼点に合わせて以下に簡単に記してゆく(A～E)。

(A) 実例：大型中型の分類基準とした「実例」を掲載するものはほとんどない。その中で、⑪新選は収録語数8.6万、万葉集や源氏物語の用例を古語として収める。⑫明鏡は現代の例で出典表示がある。例えば「湧く」の項目では司馬遼太郎、三浦哲郎、森鷗外の例を引く。⑬新明解は出典表示をしないが、現代小説や古典から実例を長めに引いているようである。「つゆ」の副詞用法の例として「つゆも物空に翔けらば、ふと射殺し給へ」とあるのは、『竹取物語』本文の、かぐや姫の昇天を阻もうとする人の言葉である。

(B) アクセント：デイリーで全語に付いていたアクセント表示は、同じ三省堂の⑭新明解に、より精密なものが掲載されている。アクセントというのは単語ごとに決まっている発音

の高低のことで、標準語の場合、〈高〉から〈低〉に移る位置で記述できる。蕎麦(ソバ)は1音節目のソが高く、バで下がるから⑮と記す。研究室(ケンキョウシツ)はキュの後で下がるから⑯、天ぷら(テン普拉)のように下がるらないものは⑰である。全語対象は他には中型の⑱集英社のみ。⑲例解は同音語があるもののみ上記のような太字表記、⑳現国は同音語でアクセントが異なる場合のみ、欄外(余白)に上線表記している(例：はし[端]ハシ、[箸・嘴]ハシ、[橋]ハシ)。

(C) てにをは：ポケット型との大きな違いは、助詞・助動詞を中心とした文法(文型、語法)項目の充実にある。㉑新明解では、重要度の高い動詞1000語についてそれぞれの必須成分(名詞+格助詞)を記述している。例えば、「すべる(滑る)」は以下のように記述される(抄出)。

1. 〈どこヲ〉 接触を保ちつつ、物の面を抵抗なく速く移動する。
4. 〈なにヲ／なにニ〉 その位置を保てなくなる。「委員長を一／入学試験に一 [=落ちる] /…の座を滑り落ちる」

また、⑫明鏡は「水を沸かす」のか「お湯を沸かす」のか、といった日常的な疑問に答えるべく、「語法」としてやや専門的な文法記述をしている。「ほる(掘る)」の項目：

1. 穴をあけるために地中の土などを取り除く。「地面を一」[語法] ～ヲに〈対象〉をとる。
2. 「掘る」①ことによって、穴や穴状の設備や建造物を作る。「地面に穴を一」「温泉[トンネル]を一」[語法] ～ヲに〈結果〉をとる。

その他、「知ってる」というときのテルなど、言語学的には単なる口語音声の問題ではないが、普段の言語生活では公式の文章には使えない口語形でしかなく、立項しない辞書も多い。しかし、教育の場では全ての文は単語に分解され、その単語は形や意味の面からグループ分けされる(品詞という)ことになっている。よっ

て項目は無いよりはあった方がいいが、「俗」
とか「口語」といった注記が欠かせない。

(D) 類義語：類語辞典的機能をもたせるものが少なくない。婉曲表現の多い「死ぬ」の項目には15～65個の類義語がコラムで列挙されている(⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒)。中でも⑭精選は4つ前の項目「しにん(死人)」でも[死人、故人、亡き人、仏、亡者、土左衛門、新仏]を類語として囲み、この7語それぞれに「しにん」への類語参照指示を記しており、既知の語から未知の語に出会える作りになっている(4.参照)。

(E) その他：辞書により力点を置くか置かないか差が出るところとしては、常用漢字の書き順の有無、歴史的仮名遣いを字音語まで載せるか否か、全ページの余白に非文字記号の凡例を記す(⑮⑯⑰⑱)、表記や類義語の注記を目立たせるための2色刷り(白黒紙面は⑥⑦⑧⑨⑲⑳㉑)、といったものが挙げられる。

3.3 流行語の立項——「ナウい」を例に——

冒頭に書いたが、人は規範を求めて辞書を見る。作る側は、現代の言語生活で便利に使えるよう、新しい要素も盛り込もうと努力する。しかし安易に載せすぎると、ゴミだらけになり信用を失う。新語・俗語・流行語の採録選定は、「将来日本語として定着すると思われる語を抜き出す」(『三省堂国語辞典』4版序・見坊豪紀)作業である。

小型国語辞典は7～10年のサイクルで改訂が行われるが、その選定の網をくぐり抜けてきたとおぼしき二、三十年前の流行語「ナウい」について最新辞書の記述を比較し、流行語採録の問題点について考えてみよう。

ナウ〈形動〉[now][俗語]時代の先端をいこうす。現代的。「一なファッション」
用法「ナウいスタイル」のように、形容詞としても使う。(⑱)

小型国語辞典ではこれが典型的な記述である。俗語表示をし、形容詞の「ナウい」までは独立

項目として立てない。両方立項するものもあれば、両方立項しないもの(⑥⑧⑩⑪⑬⑲⑳㉑)もある。逆に「ナウい」のみ載せるもの(②㉒)もある。位相や語義については大同小異だが、収録語数の多いものには流行語としての注記をするものがあるので紹介しよう。

(イ) ⑳学国：ナウ(形動)現代感覚にあふれた新しさを持っているようす。一切の伝統や既存概念を越えた新鮮な魅力を持っているようす。「一なファッション」「一なおしゃれ」「一な生き方をする青年」参「モダン」「いかす」「かっこいい」の語感を継ぐ、昭和四十七年頃からの流行語。

(ロ) ㉑新選：「ナウ」(形動)参考1970年代の流行語。

(ハ) 小学館日本国語大辞典2版：「ナウい」一九八〇年代の流行語。*にんげん動物園(1981)〈中島梓〉六三「深田祐介さんの、ナウい女性ばっかし」

nowを形容動詞化した「ナウな」が生まれたのが1972年、さらに「ナウい」と形容詞化したのが1980年ごろであることは、小林信彦『現代〈死語〉ノート』『現代〈死語〉ノートⅡ—1977～1999—』(岩波新書1997,2000)にも記されている：

(ニ) 1972年 ナウ・ナウなヤング
出ました。死語中の死語である。[中略]若者が使ったというより、大人が若者に媚びて使ったもの

(ホ) 1980年 ナウい
一九七二年ごろに流行した〈ナウ〉〈ナウな〉はあつという間に死語になったが、この年、死語が反撃に出た。[中略]〈現代風な〉という言葉はなかなか新語になりにくい。そこで〈ナウい〉〈今い^{いま}〉という形容詞が作り出され、〈ナウい〉が残った。

小林は1932年生まれなので、(ニ)(ホ)は40～50歳のときの観察である。筆者も「ナウ

い」については小学生として「流行」を体感しており内省がきく。1980～81年ごろに友人が盛んに使っていた。そしてすぐに古臭くなって、使い手である若年層の日常会話には出てこなくなる。

しかしこの語は、「短命であった流行語の典型、いま使うとその意味とは反対に“時代遅れ”で格好わるい」という属性で生き残り、現代でも本当の意味での死語ではないのである。

現在、日常会話で「ナウい」が出現するのは、
(1) この語のかつての流行と衰退を知っている世代が、死語としてわざとふざけて使う。

という場合であり、漫画や小説での出現は

(2) この語を若者言葉として受容した中高年が、その衰退に気付かず、若者と調子を合わせようとして現代で無理に使ってみせ、失笑をかう。

という文脈においてである⁽⁴⁾。

さて問題は、この類の語を注記なしに掲載することの是非である。生殖や排泄に関する語句には人前で口にするのが憚られるものも少なくないが、それらも「俗」という注記では説明不足で、載せる以上は「人前で使うと自分の品性が疑われる」という情報を記すべきであろう。「ナウい」はそういった卑語ではないが、辞書の通りに人前で使うと恥をかく可能性がある。3.2のBCD、および後述の4.から見えるのは、言語運用（話す・書く）への積極的な貢献を目指す現代国語辞典の姿である。新しい表現の収録には事後処理（注記の増補や項目削除）まで含めた配慮が必要であろう。

「キレル」「うざ(った)い」などの採録と記述も、その配慮をはかる試金石となろう。

4. 凡例に見る編集態度

どの国語辞典も見出しと語釈のページが90%以上を占めるのだが、その前後に序文・凡例と付録が必ず付いている。序文・凡例は、電化製品でいえば取扱説明書にあたるものであり、重要な割には丹念に読まれない。しかしここ

は、「どうしてこの辞書を作ることにしたか」が明記されている部分なのであり、辞書を選ぶ、また選んで使いこなすための大きなヒントが書かれている。具体例を示そう(下線筆者)。

⑧岩波：その語の意味と特定文脈で（たまたま）生ずる意味との区別に留意し、気軽に意味番号を振って列挙するような態度は慎んだ。

[中略] 大概の語で一語が九つも十もの意味をもつと見るのは、いかにも安直であり不自然でもある。(6版)

十分安定したとは言いがたい新語（外来語を含めて）は採録しなかった。（初版「はじめに」）

⑨福武：今までの辞書の多くは、語句の意味を説明することに主眼がおかれていて、[中略]そこで、この辞書は、文章を書くときの、表現に役立つ辞書という性格を強めて編集した

⑩角川：日常の言語生活で広くつかわれる基礎語、および高等学校までの各教科の学習関係の基本語を中心に、[中略]百科項目（人名・国名・地名・作品名・動植物名など）を豊富におさめ

⑪学研：（春、夏、風、心、笑う、など）日本人の感性に深く関わる単語には、用例や類語・関連語を多数示し、語感の理解や多様な表現に役立つようにした。助詞・助動詞・形式名詞・補助動詞の類も再検討を加え、用法を細かく分けて例を多くあげた。最近盛んになった外国人への日本語の教育にも役立つことと思う。

⑫現国：能う限り作例を用意し、例解をもって用法を示す。例文中の当該語も実字をもって示す。／類義語における用法の違い、語と語の結びつき等について、枠組みの表を用意する。⁽⁵⁾

⑬精選：中学校・高等学校の生徒、特に高校生の国語の学習に利することと、大学生から一般社会人の日常の言語生活における、様々な疑問と関心に応えられることを目的として編集したもので、次のような特色を持っている。A. 説明本文に横ルビを付した（まず何よりも読んで意味の分かることを重視した）。[中略]B. 語

と語の関連を重視した（約 2000 の類語項目に、関連のある語約 16000 語を集めた）

⑮三省堂：新語やカタカナ語に敏感に反応し、ほかの辞書にさきがけて採録につとめてきた

⑯新明解：見出し語をむやみに増やさず、語釈の充実と深化に努めた。

⑰講談社：巻末の「漢字音訓総覧」は、約 7000 の漢字を収め、その音訓と、難読の熟字訓・あて字などの読み方を示した。これによって、読めない語は引けないという国語辞典の悩みを解消し、漢字辞典も兼ねるようにした。

5. おわりに

人それぞれに個性と辞書使用目的があり、辞書にも編纂目的に沿った個性があるということ、辞書を選ぶ際には強く意識すべきである。結んでみれば平凡だが、それに尽きるのである。

注

(1) 金武伸弥『『広辞苑』は信頼できるか—国語辞典 100 項目チェックランキング』（講談社 2000）、石山茂利夫『今様こくご辞書』（読売新聞社 1998）『裏読み深読み国語辞書』（草思社 2001）、倉島節尚『辞書と日本語 国語辞典を解剖する』（光文社新書 2002）、国広哲弥『理想の国語辞典』（大修館書店 1997）

(2) 「和英併用」というタイプの一群は掲載情報の性質が違って比較にならないので、本稿の考察からは外す：『新修広辞典 5』集英社 5.0 万語 1996、1262 円、『現代国語辞典』日本文芸社 5.2 万語 2002 改訂、1400 円、『国語辞典』金園社 6.0 万語 1982、1300 円、『角川実用国語辞典』角川書店 5.0 万語 1986、1300 円。また、小型に属するものは数多くあるので、収録語数 5 万語、改版年 1994 年以降、というのを基準にしてリストアップした。『角川最新国語辞典』（1987 初版、1998 年 41 版〈41 刷〉）や長岡書店『実用国語辞典』1989 等は 6 万語クラスだが載せていない。

(3) 拙稿「接尾辞ガマシの意味とその変化」『文芸研究』145、1998

(4) 高橋しん『いいひと。』5 巻〈小学館 1994〉163 頁「オレの娘は現役の女子高生だぜ。ナウイヤングのコトバは超知ってんだよ!」など。ただし、石山 1998 には平成 7 年から 8 年にかけて新聞で用例調査をした結果、投書などから 8 例を採取したとある。うち 3 例が紹介されているが、やはり通常の使用語彙とは考えられない。例えば「英字誌「ウェア(wear)」を持つ私に、「ナウい本ですね」と女子学生が声をかけてくれた」(P127) という 66 歳大学教授の寄稿も、「ナウい」が死語の代名詞と知っていてふざけて使った若年層に、その衰退に無頓着だった老年層がまともに答えた例と解される。

(5) 例えば「とうよう(登用)」の用例を示す場合に、「人材を一する」とせず、「人材を登用する」のようにすることが“実字をもって示す”である。“枠組みの表”とは右のようなもの。『使い方の分かる類語例解辞典』（小学館 2003、3200 円）はこの種の表を 1700 個掲載する。

抜擢 てば き	起 用	登 用	
○	○	○	新人を 〓する
△	△	○	くの人材 の道を開 〓
○	○	—	れるに開幕 〓投手
—	○	—	を誤る選手 の〓
○	△	—	演じる主役を 〓され